

1. 気象概況（中野市長丘地区気象ロボット観測データによる）

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
3 月	平均気温（℃）	5.4	2.0	4.8	3.2	4.2	4.6	4.8	5.2	月間平年比+0.4℃（並）
3 月	降水量（mm）	12.0	26.6	24.5	20.2	22.0	19.9	58.5	66.7	月間平年比 87.7%（極多）
3 月	日照量（h）	54.3	45.7	69.7	61.2	54.4	64.4	178.4	171.3	月間平年比 104%（並）

- 2 月特記：最高気温 14.5℃（2/22） 最低-17.3℃（2/7） 氷点下 10 度以下 3 回 多降雪 20.0 mm（2/11） 強風 14.5m/s（2/5）
- 3 月特記：最高気温 22.7℃（3/19） 最低-10.2℃（3/17） 降雪 9.5 mm（3/16） 強風 16.3m/s（3/20）
- 上旬（平年比）：気温（極高）+3.4℃、降水量（少）45%、日照量（並）119%
- 中旬（平年比）：気温（高）+1.6℃、降水量（多）121%、日照量（並）114%
- 下旬（平年比）：気温（並）-0.4℃、降水量（並）110%、日照量（少）84%



2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

【生産特記 2020】

- ① 生産基盤（推定）：ぶどう 350ha・りんご 150ha・もも 88ha・和梨 12ha・西洋梨 6ha・桜桃 11ha・柿 6 ha
- ② 百年ふじ 2020：年間で苗木 1,300 本導入予定（面積 6ha） ⇒ 2020 秋には苗木導入 6,000 本・面積 30ha 到達予定（推定）
- ③ ハウスサクランボ：1400 h 到達 1/2（平年比-10 日） 3/18 現在、被覆棟数 27 棟。 出荷 3/27～。
- ④ ハウスもも：1 棟。1/8 被覆・加温開始。初出荷 5/1 頃～（昨年並）。
- ⑤ ハウスぶどう：被覆の進みは計画通り。被覆後の水上がり等は非常に早い。
- ⑥ 発芽：プラム 3/11 もも 3/22 りんご 3/27 ナシ 3/30 巨峰 4/22 シャイン 4/27 *平年比△7-10
- ⑦ 開花予報：プラム 4/5 頃 もも 4/10 頃 ナシ 4/12 頃 ふじ 4/20 頃 巨峰 5/27 頃 シャイン 6/2 頃 *平年比△7
- ⑧ 参考：もも開花 H28：4/9、H30：4/12、R2：4/5 ふじ開花 H28：4/21、H30：4/21、R2：4/15
- ⑨ もも：枝枯れ、樹体枯死の症状が散見される。
- ⑩ ぶどう水上がりは過去 10 年で最速。凍害発生が心配される。
- ⑪ 凍害対策：幹部のワラ外しは第一回目防除まで引き延ばす。
- ⑫ 凍霜害：開花期前後の遭遇の危険性が非常に高い。防霜対策は万全にし、人工授粉を例年以上に徹底する。
- ⑬ 土壌水分不足による貧弱花や休眠不足による発芽不良が心配される。
- ⑭ 結実確保対策：凍霜害等により結実不良が非常に心配される。人工授粉作業は例年より多めに実施したい。
- ⑮ 【注目】土砂堆積土園地：堆積土が覆っている園地では、窒素吸収量が増加する可能性あり。春の窒素施用は見送り、結実後などに生育が弱いと判断される場合は、必要に応じて追肥で対応する。

【2020 病虫害対策】

- ① 共通：全体の散布スケジュールは平年より 10 日～2 週間早い計画で進める。
- ② 腐らん病：暖冬（高温）で早期感染拡大。全域で 2 月の時点では異例の広がりを見せている。
- ③ 黒星病：展葉後（4 月初旬）・開花期（4 月中旬）の予防散布を特に重点とし、早期感染を防止する。
- ④ せん孔細菌病：枝病斑が非常に多い（全域）。開花期のボルドー（4/10 前後）と落花期以降の薬剤散布を特に重点で進める。
- ⑤ 黒とう病：発芽前の合剤散布徹底。生育が極早いいため散布遅れに注意。4 月下旬のパスポート顆粒の散布も遅れずに実施する。
- ⑥ 晩腐病：病原の除去を徹底。4 月下旬のパスポート顆粒の散布も遅れずに実施する。
- ⑦ 主幹害虫：粗皮削りの実施とラビキラー乳剤等の丁寧な散布実施。産卵前の散布を重点とする。
- ⑧ シンクイムシ類：越冬世代が 4 月下旬から発生見込み。初期の薬剤散布を徹底する。
- ⑨ カメムシ類：山間部を中心に 4 月下旬の早い段階からの加害が心配される。早期特別散布等が必要。
- ⑩ ハダニ類：6 月中旬からの高密度化と盛夏期の多発が予想される。殺ダニ剤の早期散布等で対応する。